

「平成27年度 児童・生徒の学力の向上を図るための調査」

江戸川区立一之江第二小学校 5年担任

調査日 : 平成27年7月2日(木)

対象学年 : 第5学年

実施人数 : 113名

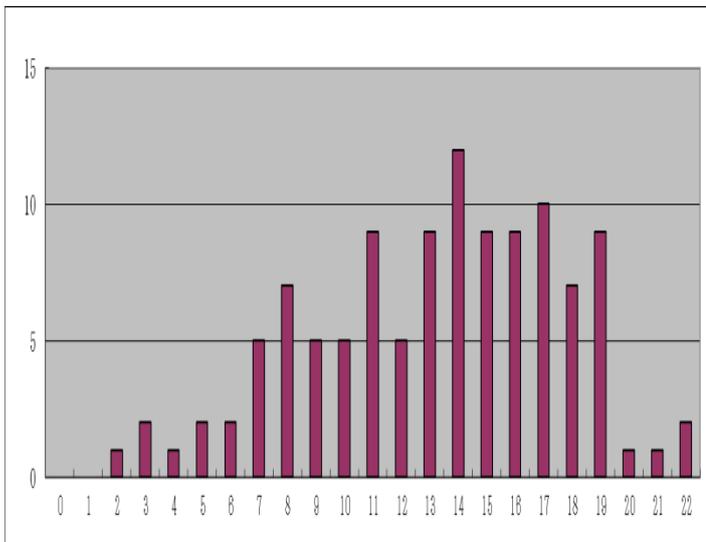
教科 : 国語・社会・算数・理科

結果

教科	A 教科の内容		B 読み解く力に関する内容		AとBの合計	
	学年	東京都	学年	東京都	学年	東京都
国語	64.8%	67.1%	30.4%	32.9%	60.1%	62.5%
社会	58.6%	60.1%	44.2%	47.4%	54.8%	56.8%
算数	64.6%	67.9%	41.0%	45.3%	60.1%	63.7%
理科	70.0%	70.4%	58.4%	57.1%	67.3%	67.3%

分析・改善点

国語



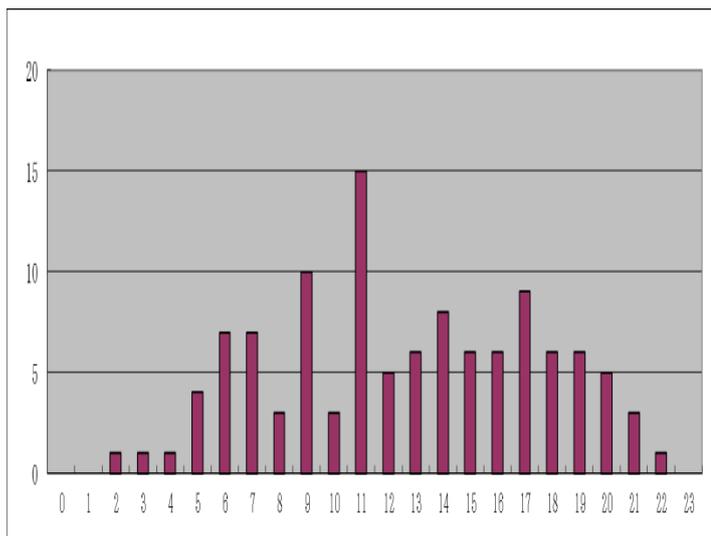
○物語の読みに関する問題は、正当率が92%と非常に高かった。登場人物の気持ちがどのように変化していくか、叙述をもとに正しく読むことができています。

○関心・意欲の数値が高く、進んで学習に取り組もうとする児童が多い。

●4年生までに学習した漢字を文の内容に合わせて読むことができていない。特別な読み方の漢字など、適宜使い分けさせる必要がある。

●資料を比較しながら読み取る問題の正当率が5, 3%と低かった。文章の構成を読み取って、共通点や相違点を見つけたり、次に続く内容を推論したりする力が弱いと考えられる。

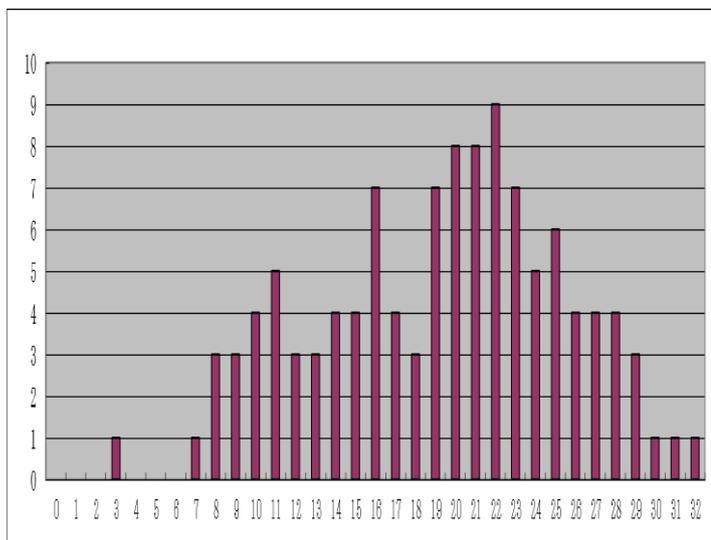
社会



○社会的事象への関心・意欲・態度は93, 8%と数値が高く、意欲的に学習に取り組もうとする態度が見られた。

- 問題の意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力を問われる問題の正当率が12, 4%と低かった。問題文を正しく読み取る国語力とも大きく関係している。
- 社会的事象についての知識・理解が全体的に低かった。社会科だけでなく各教科と関連付けながら知識の定着を図ることが必要である。

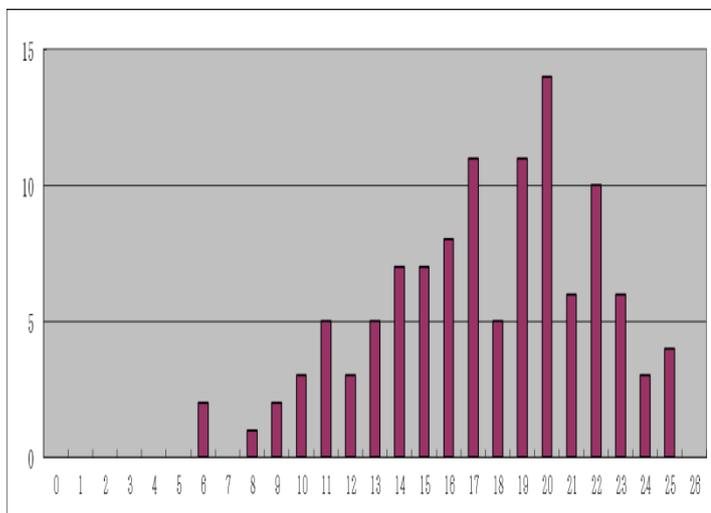
算数



○「量と測定」「図形」の領域は比較的正当率が高かった。視覚的にイメージすることができる単元のため、学習の理解へと繋がっていると考えられる。

- 「数と計算」では小数の計算や何分の1にする計算など、位取りが正しくできていない児童が多かった。東京ベーシックドリルを活用するなど、既習事項を事項を定着させる必要がある。
- 他の主要教科に比べると関心・意欲・態度が低いため、習熟度別で個に応じた授業が必要である。

理科



○AとBテストの合計が東京都の平均と同じで、全体的に見て高い水準の結果となった。

- 文章と資料を見比べて正しい情報を読み取る問題での誤答が多く見られた。グラフから縦軸と横軸の数値が何を表しているか理解できていないと考えられる。算数とも関連付いている。
- 2つの実験から結果を総合して考える問題での正当率が35, 4%と低かった。授業の実験を通して自ら考える機会を増やす必要がある。